

道徳教育の体系図（イメージ）（案）

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及び要の時間としての道徳科の目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う(指導要領)

道徳性

= 人間としてよりよく生きようとする人格的特性(解説)

道徳性を構成する諸様相・・・道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲と態度(解説)

道徳科においては、道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己(人間として)の生き方についての考えを深める学習を通して育てる(指導要領)

評価について

児童生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにすること。(指導要領:総則)

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育

道徳性が養われたか否かは、容易に判断できるものではない(解説)

指導要録上、行動の記録の一つの要素として位置付け

【参考】要録通知

○行動の記録

行動の記録については、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の、特別活動やその他学校生活全体にわたって認められる児童の行動について、設置者は、小学校学習指導要領等の総則及び道徳の目標や内容、内容の取扱いで重点化を図ることとしている事項等を踏まえて示している別紙5を参考にして、項目を適切に設定する。

各学校における評価に当たっては、各項目の趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合に、○印を記入する。

要

道徳科

児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。(指導要領)

道徳性が養われたか否かは、容易に判断できるものではない(解説)

+

個人内評価(観点別評価、評定は行わない)

児童生徒の学習意欲を高め、その後の学習や発達を促していくためには、児童生徒のよい点を褒めたり、さらなる改善が望まれる点を指摘したりするなど、児童生徒の発達の段階等に応じ、励ましていくことが重要である。(報告)